

2020年度タスクフォース発言メモ（7機関）

		①新型コロナ感染拡大防止のために、現在どのような就労環境をとっているか							②③顕在化したジェンダー平等に関連する課題及び対策		④メンバー機関で協力して行えるコロナ対策活動
		感染防止対策	在宅勤務	通勤関連	特別な工夫	会議関連	授業	学生の状況			
広島大学	2020.9.16 発言メモ	行動指針策定	事務系職員は交代制により、出勤率5割を目標	時差出勤実施、自動車等を用いた通勤方法への変更依頼	小学校の休校期間に臨時学童保育を実施。附属学校教諭などの支援を受け、職員も有資格者を中心に保育スタッフとして協力	会議はオンラインを積極的に活用	前期はオンライン又はオンデマンド。後期は、基本オンライン、できるものは対面	キャンパス内外で「新しい生活様式」による感染防止行動を徹底	0生の長期インターンシップは前期の間は中止した。夏以降、受け入れ先女性の上位職登用などオンライン研修を活性化	朝日新聞の記者による就職ハラスメントセミナー実施。広く共有のため動画作成 女性の上位職登用などオンライン研修を活性化	メンバー機関間で情報共有の推進 セミナーなどのオンラインでの開催 Good Practice の共有を
	2021.3.4 発言メモ	・危機管理対策本部の下に、新型コロナウイルス感染症対策室を設置 ・新型コロナウイルス感染症対応マニュアル（和文・英文）の作成 ・新型コロナウイルス感染症対策の情報発信、アンケート調査	感染拡大防止に最大限留意して通常通りの勤務とするが、時差出勤・テレワークを積極的に活用		・弊イズミと広島大学は、新型コロナウイルス感染者と接触がもたらす自覚待機となった一人暮らしの学生や教職員に対し、応急生活物資の配達協力に関する協定を締結（2020.11.26） ・広島大学COV-PEACE-PROJECT 2020と広島県との連携	感染拡大防止に最大限留意して対面会議を行うが、オンライン会議を積極的に活用	・第1ターム（4/8～6/15）：すべての授業をオンライン実施 ・第2ターム（6/16～8/13）：原則オンライン授業（一部の実験・実習を除く） ・第3ターム（10/2～）：感染防止対策を十分に講じて対面授業を増加	・学生の自宅等での研究活動を推奨 ・授業の受講、研究活動、許可された活動以外での入構を控える ・課外活動は限定的に実施			
マツダ株	2020.9.16 発言メモ		制限を設けず、効果的かつWLBの確立を目的に拡大	時差出勤実施、特別休暇の新設、新型コロナウイルスに関する欠勤取扱いの見直し	出張・国内外旅行（社用外含む）：状況を踏まえた制限					リモート化、社内研修の実施。TOEICの社内受験をリモートで実施、研修は対面でないといけないものもあるが、利便性が向上	リモート化により、手軽さ、気楽さから様々なイベントへの参加者がふえる。 広島大学内マツダ次世代自動車技術共同研究講座への女性研究者の参画を促進するため、その社会的価値や研究テーマを紹介するビデオを作成し、広島大学オープンキャンパス（オンライン）で公開。例年は対面で参加者200名程度だが、今回はアクセス件数1000件あり、効果が出ている。
	2021.3.4 発言メモ	出社の削減（広島地区関係部門）： ・リモートワーク、時差出勤/スーパーフレックス/土日出勤への切り替えの最大活用 ・出社を必要とする集合会議は極力回避（Web会議へ）など	3重回避のために、広島地区関係部門全体で出勤率50%以下を目標	・自家用車の利用促進 ・公共交通機関の利用抑制（混雑時間帯の利用を控える）	緊急事態宣言地域への出張の原則禁止	・社内研修や会議などはリモート開催を基本とし、面着を極力回避する ・イベント・会食・ビジネスランチの原則禁止 ・共有場所を使用した場合は、都度、アルコール等で消毒				・在宅勤務条件の緩和と新型コロナウイルス感染防止対策の一環として導入された、在宅勤務条件の緩和の対象を全社員に拡大し、より多くの方が在宅勤務（リモートワーク）可能となった →仕事と介護との両立というダイバーシティ上の課題に対応 ・特別休暇の新設：社会からの要請に鑑み、感染による重篤化リスクのある妊婦・基礎疾患のある方に対する特別休暇の新設	
デルタ工業株	2020.9.16 発言メモ	各部門を会議室に振分。外部とはオンラインで。机の配置は学校式。隣席と2mを確保。就業時はマスク着用。エアコンをつけ、窓もドアも開放	50名位が実施。現在も20名	更衣室が密になるため、制服通勤を認めた。公共交通機関利用者、リスク回避のため自家用車通勤を促進した。	入社式を6月1日へ変更し、他拠点の人はオンラインで集めた	ウェブ会議を導入				更衣室入室による接点をなくするため、私服での就業を許可しているが、女性社員から毎日の洋服が大変だという声がありました。	コロナが流行って情報が交錯し、何が正しい情報か、どんな対策を打つていいかわからない状況で、こういったときに他社との情報を共有したい
	2021.3.4 追加メモ					会議のリモート化を推進するため、WEB会議に必要な通信回線の容量を増強した。					
(一財)国際開発センター	2020.9.16 発言メモ		研究員は原則在宅勤務。事務職員は平均週3日～4日出勤。全体の出勤率は2割弱							保育園が休園の際、子供の面倒と仕事の両立に苦労したと聞いている。職員間でチャットなどで連絡を取り合ったり、情報交換をしたりして対応した	国際協力の中で、途上国の人にオンラインで遠隔研修を行っている。いろんなソフト、アプリが開発されており、メンバー機関の中でアプリなどの情報があれば教えてほしい
	2021.3.4 追加メモ	追加事項なし									
日本工営株	2021.3.4 新規メモ	日本工営における取組（新型コロナウイルス対応と働き方改革の両方の視点から、外部に説明した際のPPT） <a href="https://womenres.hiroshima-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/Nipp-onKoel.pdf">https://womenres.hiroshima-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/Nipp-onKoel.pdf</a>									
マイクロンメモリジャパン合同会社	2020.9.16 発言メモ	社内ガイドラインを策定。出勤、出張、社内の行動、空間分離などはこれに従う。		最も厳しかった時期は、電車通勤禁止、ホットスポットへ出向いた後は14日間自宅待機などで対策した。スマホのアプリを活用し出勤規定を満たすかどうかチェック。満たす場合は社内に入れる。	社員を2チームに分け、相互に接触しないようにしている。社内の共通エリア以外では動線は分けている。	会議はオンラインを活用。				学校休校に際し、父母のどちらが休むかで議論があったケースもあったと聞いている。 なお会社としては在宅勤務を認めていた。結果として家族全員が在宅となり、家庭内の密度が高くて大変だった場合もあったようだ。	
	2021.3.4 発言メモ	・事務所での対応： 机・食堂等のパーティション設置、換気強化、UV殺菌機設置。 ・社員への支援： 自宅勤務のためIT器具貸与・家具購入費補助。不織布マスク・布マスク配布。 ・接触トレーニングほか： ウェアラブル接触トレーニング機器を配布しトレーニング開始。デイリー健康報告および入構時の健康チェックは継続。 ・コミュニケーション： 週間および随時に、感染状況変化に伴う感染防止体制変更の情報発信と徹底。関連する社内ウェビナー開催。	・特殊なケースは在宅勤務が可能（9月発言参照）		・セグリゲーション： 社員を赤・青の2チームに分け、構内への入口、会社通勤バス、タクシー乗り場など全てを分けている。また、社内の食堂や売店などの共有箇所については時間帯で分けている。					必ずしも新型コロナウイルス感染拡大および対策と関係しているわけではないが、最近のマイクロンにおけるジェンダー平等に関する情報を共有する。 ・マイクロン ウィメンズ リーダーシップ ネットワーク (MNLN) と呼ぶ社員活動の活性化。女性社員の活躍を支援し、マイクロンメモリジャパンを女性が働く最高の職場にすることを目指す。 ・コロナ感染防止対策期間中も平等のための活動を実施。従来行っていた対面型のイベントは実施できなくなったが、Zoomイベントへの参加者が増え、ジェンダー平等への認識が広まるなど利点もあった。 （従来30～50人の参加者であったものが、300～400人規模になるなど。） ・なおマイクロン社内ではワールドワイドで、ジェンダーに限らずあらゆる不平等をなくし、「Diversity, Equality and Inclusion (DEI)」を実現するための社内啓蒙活動、社員活動を推進している。 2020年以降、特に強化している。日本ではジェンダー、障がい、性的志向、国籍等にかかわる不利益や差別意識の醸成を啓蒙している（NWではこれらに加え、人種にかかわる差別意識醸成の徹底を目指す。）	
広島国際大学	2020.9.16 発言メモ	感染レベル（1-5）に合わせた行動指針が策定されている。	事務職員も在宅勤務が可能だが、派遣やパートの女性が半数以上を占める非正規雇用が多い状況もあり利用者は少ない	近所に住んでいる人や車通勤が多く、休む人も少ない	行動指針および消毒、マスク等の完備。	オンライン会議の推奨。対面会議も少人数で実施。	前期はオンデマンドで、6月ぐらいから実習を随時実施。後期は、隔週で登校とオンデマンドを分ける	行動指針に基づき感染対策実施。学生は毎日体温を測って大学のHPに入力、行動記録を取る。登校時、入室時に手指のアルコール消毒。	学園内での女性活躍関連の取組がほとんど実施されていないので、講演会などの啓発活動を計画している。	対策等、情報の共有。	
	2021.3.4 追加メモ	大学独自の行動指針を策定し、4月1日現在、レベル1で対応しているマスクの着用、咳エチケット、こまめな換気、手洗い、うがい、アルコール消毒等の基本的な予防対策を徹底するとともに、換気の悪い密閉空間、多人数が集まる密集場所、間近で会話をする密接場面を避けるなど、感染防止に最大限の留意をしている。	感染防止対策を講じたうえで通常勤務を原則とするが、上長および上司が許可する場合は、テレワークや時差勤務を可としている。	公共校友機関での通勤時における混雑を避けるため、時差出勤を可としている。	マスクの着用、咳エチケット、こまめな換気、手洗い、うがい、アルコール消毒等の基本的な予防対策を徹底するとともに、換気の悪い密閉空間、多人数が集まる密集場所、間近で会話をする密接場面を避けるなど、感染防止に最大限の留意をしている。	感染拡大防止に留意して、対面会議を積極的に活用している。	オンライン授業の積極的利用。止むを得ず対面授業を行う場合は、感染拡大防止に留意して実施している。	毎日検温し、健康観察票に記載している。 学外実習生は、実習前後2週間の行動記録表を作成している。	キャリアセンターにおいて学生の入室記録を取っている。 就活に際しては「感染防止対策」に記載のとおり。		